

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 1 月 11 日

【評価実施概要】

事業所番号	3670200421
法人名	社会福祉法人 平成記念会
事業所名	グループホーム鳴門
所在地	徳島県鳴門市撫養町木津445-1 (電話) 088-685-8688

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 12 月 19 日

【情報提供票より】(平成 20 年 12 月 2 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤:8人、非常勤:7人、常勤換算:2階 7.2人 3階 6.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000~27,900 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり		1,380 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 12 月 3 日現在)

利用者人数	17 名	男性	10 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.5 歳	最低	67 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	板東診療所、大内往診クリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

3階建ての建物の2~3階がグループホームとなっている。広々としたホールの両端に居室があり、利用者の動きが目に入りやすい構造となっている。事業所内はバリアフリーとなっており、ホールには障害物がほとんどなく車いすでの移動が自由にできるようになっている。また利用者や職員は靴での生活のため転倒防止と緊急時の対応に適している。全室にトイレと洗面所、ベッドを完備している。開設当初から地域との関わりを大切にし、運営推進会議には近隣住民の参加も得られるなどの協力体制を築き、地域密着型サービスとしての実践が行われている。職員で構成する委員会ごとに毎月1回テーマを決めて勉強会を開催し、サービスの質の向上に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な課題であった「地域密着型サービスとしての理念」、「理念の共有と日々の取り組み」については、全職員で話し合い改善している。「重度化や終末期に向けた方針の共有」についても勉強会などで十分に検討し、関係者全員で方針を共有する体制が築かれ、改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で話し合い、自己評価を作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、地域住民、市職員、地域包括支援センター職員、他のグループホームの職員、介護相談員、消防団員、警察、関係職員などが参加している。会議では利用者の満足度調査、介護相談員からの報告、地域との協働、外部評価結果、地域医療連携、防災訓練、権利擁護、認知症サポーターキャラバンメイト、高齢者の虐待防止、熱中症について等を討議している。検討結果は毎月の勉強会で職員に周知し、日々の支援に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置、3か月に1回の家族会や毎月の家族の来訪時に苦情や不安を聞き、その都度話し合って解決している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入して地域の運動会や祭りに参加するなどしている。また地域住民に避難訓練に参加してもらったり、お茶を飲みながら交流している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域住民との交流も盛り込んだ、地域密着型サービスとしての理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は名札の裏に理念を記載するなどして共有し、周知徹底を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して地域の運動会や祭りに参加するなどしている。また地域住民に避難訓練に参加してもらったり、お茶を飲みながら交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で話し合い、自己評価を作成している。外部評価結果については勉強会で検討し、改善に向けた取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、地域住民、市職員、地域包括支援センター職員、他のグループホームの職員、介護相談員、消防団員、警察、関係職員などが参加している。会議では利用者の満足度調査、介護相談員からの報告、地域との協働、外部評価結果、地域医療連携、防災訓練、権利擁護、認知症サポーターキャラバンメイト、高齢者の虐待防止、熱中症について等を討議している。検討結果は毎月の勉強会で職員に周知し、日々の支援に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する研修会、権利擁護事業・認知症地域支援体制構築等推進事業・高齢者を取り巻く消費生活トラブル等研修会・認知症キャラバンメイト養成研修などに出席し、また介護相談員の受け入れを行うなどしてサービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月来訪してもらい日頃の様子や金銭管理状況を報告したり、意見や苦情を聞いている。緊急時には電話で連絡している。職員の異動や退職については、壁面に張り出したり家族会で報告するなどしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、3か月に1回の家族会や毎月の家族の来訪時に苦情や不安を聞き、その都度話し合って解決している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最低限に留め、やむを得ない退職などの場合は事情を説明し、利用者への影響を防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は分野ごとの委員会に所属し、年間計画にそって毎月テーマを決め、勉強会を行っている。内・外部研修は、介護保険制度や利用者のケアなど多岐にわたっており、その内容は職員間で共有している。研修への参加は職員の希望にそって行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者に運営推進会議に参加してもらったり、グループホーム協会徳島県支部が主催する相互評価事業を通してサービスを見直すなど、共に向上する仕組みを築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居や時間をかけた話し合いにより、利用者や家族が十分納得してから利用に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から昔の知恵を教えてもらったり、家事を協力して行うなどしてお互いに支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や定期的に認知症高齢者の詳細なアセスメントができるセンター方式を行い意向の把握に努めている。意向の把握が困難な場合は、話を傾聴するなどしてできる限り利用者の希望にそよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の記録や職員の気付きを家族と話し合い、利用者の希望にそった介護計画を作成している。計画書には利用者・家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて定期的に見直している。また日々の気付きや利用者の状況の変化によって随時、見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、通院支援などを行っている。また利用者や家族の要望に応じて外出に付きそうなど、柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、勉強会などで十分に検討し、関係者全員で方針を共有する体制が築かれている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助時などは自尊心を傷つけない言葉かけに努め、個人情報については勉強会などをして記録などの取り扱いに留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた生活が送れるよう希望を聞き、その日の過ごし方を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じ、食事の準備や後片づけなどできることを一緒に行えるよう支援している。また会話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の意思を尊重し、その日の希望や気分、体調に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りなど利用者の生活歴や趣味に合った役割やレクリエーションを支援している。また行事や外出など気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ、買い物、外食などの外出支援をしている。自発的に訴えができない人へは言葉かけし、外に出るように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は近隣住民参加のもと年2回、開催している。また災害時や緊急時には協力を得られる体制が築かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の栄養士が立て、栄養バランスに配慮している。食事・水分・おやつ摂取量を記録している。また水分については入浴後の摂取量も記録に残し、把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	展示物や花を飾り、四季を感じられる。共用空間は広く、ほどよい明るさで利用者一人ひとりがゆったり過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族との写真や手芸作品を飾るなど、居心地よい空間づくりに取り組んでいる。		